

会員のば

十二支

旭川市医師会
この優眼科クリニック

今野 優

ちょっと時期をはずした話題になってしまって恐縮です。新年のご挨拶である年賀状ですが、昨今のデジタル通信の発達から、LINEで「あけおめ」の4文字で終わることもできる時代になってきました。巷では、LINEで退職の連絡が来てしまうというご時世ですから、わがクリニックでもLINEで「今日体調が悪いので、お休みさせていただきます」という連絡が来てまったく驚きません。とはいえ、アナログ世代の自分としましては、LINEの連絡よりも、電話での連絡の方を好ましく思いますし、お正月に受け取る年賀状でのお互いの近況報告を楽しみにしています。

『患者さんに優しい眼科クリニック』を目指して、2003年7月に開業しました。日帰り白内障手術をメインにして、来てくださった患者さんに安心を持ち帰ってほしいと日々精進しています。開業するまでは、親戚・友人と、医局の先生方に年賀状を送っていましたが、開業してからは、医師会の先生方や白内障手術を受けてくださった患者さんにも、年賀状を送るようにしています。

年賀状もオリジナル感を出したくて、毎年年末になるとどんな年賀状にしようかと、アイデアをこねくり回しています。開業して4年間は本屋さんで売っている『年賀状アイデア集』からイラストを探して、どうやったらオリジナル感が出るのかと試行錯誤していました。2008年に子年を迎えて、十二支の始まりということで、自分の顔写真をくりぬいてイラストにはめ込むということで、オリジナルの年賀状ができるのではと思いつきました。

子年は、Maisy（メイシー）というネズミが医者の格好をしているイラストを見つけて、Meisya（目医者）に替えてみました。この年賀状を受け取った患者さんから「先生、初笑いしました！」と言ってもらえたのに味をしめ、顔写真はめ込みシリーズを続けようと思いました。丑年は、牛になって牛肉の部分の説明をクリニックの説明に替えてみまし

た。例えば「あなたの視生活のネックを取り除きまず」「目の悩みごとを肩ロース」などなどです。寅年は、阪神タイガースのマスコット・トラッキー（ToLucky）に扮して「Let's Go To Lucky」です。卯年はミッフィーで「今年は年男です。楽しく跳ねる一年になりますように」、辰年はポケモンのタツツーです。巳年はレッドスネークカモンの東京コミックショーで、「今年もレッドスネーク（結膜炎）、グリーンスネーク（緑内障）、ホワイトスネーク（白内障）を優しく退治します」でした。2014年は午年でしたが、2013年9月に「旭川総合観光情報センター」の愛称決定セレモニーにて、旭川市のマスコット「あさっぴー」から「あさテラス」を表彰されたので、その時の写真にしました。2015年末は、顔写真をイラストに変換してくれるソフトを見つかったので、羊の上に乗ってロデオをしているイラストにしてみました。そして2016年の申年からイラストの中に顔を入れることに飽き足らず、実際に着ぐるみを着てみることにしました。自ら猿に扮して「よく診て、よく聴き、説明します」です。2017年は喪中でしたので欠礼させていただきました。2018年戌年も犬の着ぐるみで、眼底検査をしている「眼科人間ドック」に扮して目の検診をお勧めしました。そして今年も亥の着ぐるみで「猪突問診」、患者さんの訴えにさらに耳を傾けたいと思います、にしました。

とりあえず、自分の中ではこの十二支を徹底的にふざけた年賀状で、受け取った方に初笑いを届けたいと考えていました。「先生、毎年楽しみにしています」と言ってくれる患者さんもいて、それに勇気もらって続けることができました。医局の先生方や医師会の先生方からは、なかなか反応を聞くことができませんが、はたしてどう思われているのか、と考えますと赤面するばかりです。次の十二支は、どうしましょう。もう55歳で、ふざけたことをしている歳ではないことは重々承知していますが、年末になるとまたおふざけ気分が上がってくるかもしれません。来年のお正月、またふざけた年賀状が届いてしまいましたら「やっちゃったな」と、どうぞお許しく下さいませ。

